

令和元年（平成31年）度事業報告

I 運動推進事業

1 海洋・海事思想の普及

(1) 美ら海体験教室事業

一般財団法人近藤記念海事財団との共催により、7月13日(土)及び14日(日)に沖縄県読谷村及び宜野湾市においてサンゴ移植体験等の海洋環境学習とマリンスポーツを体験する「第12回美ら海体験教室」を実施した。

沖縄県内から212名が参加し、海洋環境教室及びサンゴ移植体験、ビーチクリーニングを行い海洋環境問題について理解を深めるとともに、ヨット・カヌー等のマリンスポーツ等を通して海洋・海事思想の普及に努めた。

(2) 我ら海の子展事業

一般財団法人サークルクラブ協会との共催により、船、海や船で働く人、海の環境保全や震災復興などをテーマにした絵画を全国の幼児・児童から募集する「第47回我ら海の子展」を実施した。

全国から12,589点の応募があり、8月19日に都内のホテルにおいて授賞式を行い石井啓一国土交通大臣から国土交通大臣賞を中学生の部、小学生高学年の部、小学生低学年以下の部の3名に授与するとともに、優秀作品50点と震災復興の願いを含めた「がんばろう日本賞」8点の計61点を表彰した。

これらの作品は、銀座ギャラリー（8月9日～9月3日）、国土交通省1階展示コーナー（9月9日～20日）、アクアマリンふくしま（10月12日～11月10日）、琴平海洋会館（海の科学館）（12月7日～1月5日）、日本郵船氷川丸（横浜港：1月25日～2月24日）等において展示して海洋・海事思想の普及に努めた。

(3) 褒状山縣賞授与事業

一般財団法人山縣記念財団の協力により、特に優秀な団員で卒団後も引き続き海洋少年団の指導に当たっている若手指導者7名を選定し、3月6日に褒状山縣賞の授与式、7日、8日に海事研修を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期した。今後については新型コロナウイルスの収束状況を見て判断する。

2 海洋少年団運動の広報

(1) 「海の月間」に開催された「海フェスタしずおか」、全国各地での記念式典、みなとまつり、パレード、カッターレース、巡視船体験航海、海浜清掃等の行事に参加し、海洋少年団運動の普及に努めた。

(2) 機関紙「海っ子」を年5回（うち1回は合併号）発行して、各海洋少年団及び関係行政機関、関係団体、各地の図書館等に配布し、海洋少年団運動をPRした。

(3) 日本連盟のホームページを活用するほかFacebookを導入し、海洋少年団に関する情報をインターネットにより内外に発信し、海洋少年団運動の普及に務めた。

(4) ポスター、パンフレット等を各海洋少年団、関係機関等に配布し、海洋少年団運

動の普及に努めた。

- (5) 海上保安庁等の海事関係機関、一般社団法人日本船主協会等の海事関係団体と連携し、各種行事への参加を通じて海洋少年団運動をPRした。
- (6) 丸亀市及び佐世保市で開催された海事振興連盟が主催するタウンミーティングに参加し、海洋少年団をPRするとともに、団員・指導者募集等の協力を依頼した。

3 海洋少年団運動の拡充／推進／強化・活性化

(1) 運動の拡充

- イ 日本海洋少年団連盟団会員の名簿管理を的確に行い、正確な団会員の現状把握に努めた。新団会員に対して会員証311枚を発行した。
- ロ 新しく設立されたあきた海洋少年団及び石垣海洋少年団の設立経費、新入団員の制服購入費等の一部を助成した。
- ハ 海洋少年団運動を支援するため、次の海洋活動器材等の整備を進めた。
 - (イ) あきた団にカヌー5艇（一人乗3艇2人乗り2艇）を配布した。
また、福岡団に、カヌー用のパドル費用を助成した。
 - (ロ) カッターの修繕予算として、以下の費用を助成した。
南勢：船底掃除・塗装、小浜：木製座席修理、八戸：キール修理、四日市：船底塗装、藤沢：オーニング、大田区：架台、千葉新宿：架台、霞ヶ浦：カッター5隻分の本格的修理。
- ニ 損害賠償責任保険に加入し、海洋少年団活動の円滑な推進を図った。

(2) 運動の推進

- イ 地域貢献の核となる地区連盟の活動を支援するため、北海道地区連盟、東北地区連盟、関東地区連盟、東京地区連盟、中部地区連盟、近畿地区連盟、中国地区連盟、九州北部地区連盟、南九州地区連盟に助成した。
なお、令和元年度は全国大会が実施されたため、地区大会は北海道地区連盟のみ開催され、助成を行った。
- ロ 団長会議 事務局長会議を開催した。
- ハ 指導体制を維持するため、指導者の実態把握を行うとともに、指導者資格審査委員会を開催し、主任指導者1名及び指導者12名を承認・登録した。
- ニ 海洋少年団運動に功績のあった団体、団員等を表彰した。

(3) 運動の強化・活性化

- イ 各地における新団結成活動等を促進するため、関係行政機関等の協力を得ながら新団結成を積極的に促すとともに、日本連盟職員、地区連盟職員を派遣し、新団設立のための支援、調整等を行った。
- ロ 日本連盟主催による上級指導者養成研修
2月29日、3月1日東京において、推薦のあった9名に対し上級指導者養成研修を実施する予定であったが、会場のオリンピック記念青少年総合センターが新型コロナウイルスの影響で閉鎖となったことから延期した。今後については、新型コロナウイルスの収束状況を見て6月頃の実施を検討する。
- ハ 地区連盟主催による指導者養成研修
地区連盟主催による指導者養成研修会等の開催を勧奨するとともに、指導者の養成を推進するため、北海道地区連盟と沖縄地区連盟が主催する指導者養成研修に助成を行った。

4 海洋環境教育・地域貢献の推進

(1) 環境教育事業

沖縄県の宜野湾はごろも団の「美ら海体験教室」における海上保安庁の指導による海浜清掃活動はじめ、全国の海洋少年団が定期的に海浜清掃等を行い、自然を大切に心やエコの精神などの涵養を図った。

(2) 青い羽根募金活動

各海洋少年団が地域貢献活動として公益社団法人日本水難救済会の実施する「青い羽根」募金運動に協力した。

(3) 地域と連携した活動

地域連携、活動活性化のためのチャレンジ事業を募集し、別紙のとおり助成した。

II 全国大会事業

8月2日から4日まで東京都内にて第54回日本海洋少年団全国大会を開催した。全国から47団、海外から4か国、641名の参加を得た。閉会式には名誉総裁高田宮妃殿下のご臨席を頂いた。

III 国際交流事業

1 国際海洋少年団協会年次総会

10月、スウェーデンにおいて開催された国際海洋少年団協会年次総会に、国際委員長及び総務部長を派遣した。

2 国際委員会

2月15日に東京都内において国際委員会を開催し、令和元年（平成31年）度の事業報告及び国際交流活動収支報告、次年度の事業計画及び収支予算計画が承認された。

3 海外の海洋少年団の招聘

8月2日から8月10日まで第54回全国大会の開催に合わせ、イギリス、アメリカ、カナダ及び香港から指導者、団員等20名を招聘し、全国大会での交流、東京近隣における海事研修を行った。

IV 需品事業

日本海洋少年団連盟規約に基づく制服、制帽及び徽章類を作成して販売した。

2019 年度チャレンジ事業一覧表

別紙

団	事業概要	金額	対象
姫路	親子カヌー教室	26,547	団員外
	姫路港ふれあいフェスタ親子ヨット体験	16,090	団員外
浜田	カヌー・SUP 教室	9,792	
清水	三ヶ日青年の家マリン体験	12,174	団員+団員外
	地域の少年たちに海洋活動の普及	79,630	団員外
豊橋	サマーキャンプ 2019	228,110	団員+団員外
佐伯	親子カヌー体験教室	53,682	団員外
火の国	小学生カヌー教室	124,436	団員外
	来日外国人子供カヌー教室		団員外
呉	江田島合宿	85,835	団員
あきた	親子で野外力海洋体験(水上バイクなど)	25,358	団員外
	海の総合学習海洋少年団体験会(業務艇乗船)	47,038	団員外
横須賀	海の教室(三笠、手旗など)	87,601	団員外
横浜	海洋教室日本丸	256,200	団員
	シーカヤック体験		団員外
南勢	いなべ市子供交流	86,294	団員外
	耐寒訓練		団員+団員外
		1,138,787	